

令和7年度

いじめ等の問題について考える集会 (中学校集会) 配付資料

日 時 令和7年12月18日(木)
14時15分～15時15分

会 場 函館市立深堀中学校
函館市立旭岡中学校
函館市立桔梗中学校
函館市立北中学校
函館市立椴法華中学校



函 館 市 教 育 委 員 会

令和7年度「いじめ等の問題について考える集会（中学校集会）」 開催要項

1 目的

「函館 いじめ見逃しゼロへ～傍観者が勇気をもって、仲裁者や相談者に転換できるように～」をテーマに、各学校の取組の交流やテーマに係る協議等を行い、いじめの未然防止、早期発見・早期対応や家庭・地域と連携した対策を推進することで、本市における「いじめ見逃しゼロ」の取組の一層の充実を図ることを目的とする。

2 日時

令和7年12月18日（木）14時15分から15時15分

※ 接続リハーサル

令和7年12月11日（木）15時20分から15時35分

3 会場

※ WEB会議システムを活用した集会

- ・函館市立深堀中学校
- ・函館市立桔梗中学校
- ・函館市立北中学校
- ・函館市立旭岡中学校
- ・函館市立椴法華中学校

4 参加対象

- ・深堀中学校、桔梗中学校、北中学校、旭岡中学校、椴法華中学校の代表生徒
学校教職員、保護者 等
- ・函館市いじめ防止対策審議会委員

5 内容

(1) 交流：自校の取組の紹介

(2) 協議：「いじめ見逃しゼロを目指して、私たちができること」

14:15 14:20

14:40

15:10 15:15

開	交 流	協 議	閉
会	(20分間)	(30分間)	会

6 その他

- (1) 接続確認リハーサルにつきましては、別途お知らせします。
- (2) 集会当日は、14時05分には接続準備を完了するようお願いします。

函館市立深堀中学校 発表用資料

① 深堀中学校の取組

<良好な人間関係をつくる縦割活動の充実>

1:IBC（いじめ撲滅キャンペーン）

・互いを認め合える良好な人間関係を築くために、代議委員会が企画し、昼休みに実施します。エンカウターの要素を取り入れたゲームやドッジボール大会などに取り組みました。

2:全校清掃

・毎日の清掃活動を3学年で協力して行っています。上級生が下級生に教え、みんなで使う学校をきれいに保つよう取り組んでいます。生活委員会や健康委員会では、定期的に活動の様子を振り返り、今後の改善に生かしています。

3:各種行事

・体育大会では、AブロックとBブロックに分かれ、3学年で協力しながら各競技に取り組みました。縦割練習の実施や3学年の円陣など、縦のつながりを意識した取組を行いました。文化祭では、縦割合唱集会を実施し、各学年の合唱を発表し合い、感想や上級生からのアドバイスを伝え合う場を設け、互いに高め合っています。

4:ボランティア活動への参加

・生徒会と地域包括支援センターの方と連携して、ボランティア活動を実施しています。地域の方との交流を図りながら、地域貢献に取り組んでいます。ボランティアで学んだことを学校行事にも生かすことができました。

5:いじめについて考える集会

・いじめの定義やいじめに関するニュース、四層構造について学びました。ロールプレイを行い、加害者・被害者・観衆・傍観者の特徴的な行動を確認し、それぞれの立場を理解したうえで、観衆や傍観者を減らすために自分たちができることを考えました。

② いじめ見逃しゼロを目指して、私たちができること（傍観者について考える）

- ・生徒会活動や学校行事などで、縦のつながりと横のつながりを強めていき、互いを認め合い良好な人間関係をつくり、安心安全な学校生活を過ごすことが大切と考えます。
- ・互いに言い合える雰囲気作りのために、笑顔や優しい声かけを日ごろから心がけて生活します。『今日も一日頑張りましょう!』の挨拶運動、他学年で協力する清掃活動などを通して、良好な人間関係を築き、相談しやすい環境、「大丈夫?」と声をかける環境を作ることが、傍観者や観衆を減らすための第一歩と考え、日ごろの取り組みを大切にしていきます。

函館市立旭岡中学校 発表用資料

① 旭岡中学校の取組

毎年2回実施している「いじめアンケート」の結果のうち、全校共有が可能な数値データを活用し、それを私たちの学校生活に生かしていくことで自治力を高め、「旭岡中学校全員で創る学校」を目指す取組。

各学年の班を組み合わせた縦割りグループの活動の様子（総務班、学習班、生活班、文化班、保体班）



② いじめ見逃しゼロを目指して、私たちができること（傍観者について考える）

○ 「あなたの周囲に『いじめで嫌な思いをしているが、だれにも相談できない』と思われる人がいます。その人に気づいたときに、あなたならどうしますか。」の課題をもとに、1年生から3年生を5つの縦割り班（総務班、生活班、学習班、保体班、文化班）にし、グループ討議をしました。

○ 主な意見

- ・コミュニケーションをたくさん取り合うことで、嫌な思いをしているのかなと気づいた人と、嫌な思いをしていそうな人がお互いに理解しあえる関係をつくる。
- ・少しでも話しやすい雰囲気を作ってあげて、相談しやすいようにする。
- ・一人一人が良好な関係を築いていこうとする気持ちを持つことが大切。
- ・声を掛け合って被害者の気持ちを探る。・相手のことをよく知る。
- ・何かする前によく考える。・自分がされて嫌なことはしない。言葉や行動に責任を持つ。

○ 方策

- ・勇気をもって、助けようとする気持ちを持ち、孤立する人がいないようコミュニケーションを多く行う活動を取り入れる。（ふれあいの場を設け、レクリエーションを通じて相手を知る活動を行う。）

例：ジェスチャーゲームや伝言ゲーム、ご当地クイズ等

○ 方策で期待できること

今年度の10月実施のいじめアンケートによると、「嫌な思いをした時に、だれにも相談しない」と答えた生徒は本校全生徒中6.3パーセントである。逆に誰かに相談できる生徒が9割以上いる。この9割の生徒が一步踏み出せるように、対話を取り入れた取り組みで、生徒同士による相談のしやすさを高めていくことができるようにしていかなければいけない。いじめを見て見ぬふりをしている子どもたちを、いじめられている生徒のサポート役に変えるような生徒主体の活動に取り組むことで、学校生活の環境変化が期待できる。

函館市立桔梗中学校 発表用資料

① 函館市立桔梗中学校の取組

生徒会の取組のうち、特にいじめ見逃しゼロにつながる活動について

1. あいさつ運動

全校生徒が互いにコミュニケーションを図ることをねらいとして、毎朝、生徒会総務・中央委員・生活委員が生徒玄関に立ち、登校する生徒とあいさつを交わしている。

2. 体育祭での縦割り種目の実施

異学年交流を図り、学年問わず協力できる雰囲気をつくることをねらいとし、体育祭の生徒会種目では、部活動対抗リレーと縦割り綱引きを実施した。

3. いじめ撲滅集会の実施

いじめについて、全校生徒一人一人が考える場を設けるために、6月に集会を行った。事前にいじめに関するアンケートを実施した結果、嫌な思いをしてもそれを嫌だと伝えられない人が多いことがわかった。そこで、各学級で、「どんなときに嫌な思いをしたか」、「嫌な思いをする人がいない学級にするにはどうすればよいか」について考えを交流してもらい、話し合った内容を集会で発表してもらった。学級で出された意見を生徒会総務がまとめ、今後意識してほしいことについて全校生徒に共有した。学級での話し合いや、集会で他学級や生徒会総務の考えを聞いたことで、いじめのない学校にするために、仲間と関わる時に意識すべきことについて、全校生徒一人一人が考えを深めることができた。



② いじめ見逃しゼロを目指して、私たちができること(傍観者について考える)

いじめ撲滅集会での話し合いをもとに、仲間と関わる時に意識すべき3つのことを生徒会総務がまとめ、全校生徒で共有した。

1. 相手の気持ちを考えて、思いやりのある言動を心がけよう

- 自分がされて嫌なことをしないようにしよう
- 思ったことをすぐに口に出すのではなく、相手がどう思うか考えてから発言しよう

2. お互いの個性や価値観を認め合おう

- 得意なことや苦手なこと、容姿や性格は人それぞれ違うことを認め合おう
- 自分は良いと思うことでも嫌だと感じる人がいることを考えよう

3. 思いを伝え合える環境をつくろう

- 嫌なことを嫌だと安心して伝えられる雰囲気をみんなでつくろう
- 日頃からコミュニケーションをとって、考えや意見を言い合える関係をつくろう

これらのことを意識することで、いじめを未然に防ぐことができるとともに、全校生徒で上記3点を共有したことで、これに反することが起きている場合には声を挙げやすくなり、傍観者を減らすことにつながると考えた。

函館市立北中学校 発表用資料

①北中学校の取組

1. 異学年交流

(1) 体育大会

縦割り競技を実施。「綱引き」「リレー」「ペットボトルタワー」の3競技に分かれて行った。各競技準備から練習、作戦会議などをリーダーが中心となって行った。1年生にとっては入学後最初の大きな行事なので、上級生や異なる小学校出身の同級生と交流を深める良い機会になっている。

(2) 夏休み前全校集会（2期制により終業式の代わりとなる全校集会）

生徒会総務が企画運営、異学年交流を目的としたレクを実施。全校生徒がゲームを通じて交流を深める。現在は今年25日の冬休み前全校集会に向けて企画準備中。

2. 他者を思う心の育成

(1) 中体連総合大会（吹奏楽地区コンクール）応援ボード

全校生徒からメッセージを集め、中体連に参加する部活動の写真とともにメッセージを掲示。

(2) 感謝の言葉

感謝の言葉を文字にして伝える活動。先輩後輩、同級生、家族、学校職員、地域の方々への日頃の感謝の気持ちを伝える。メッセージは次年度のGW頃まで校内に掲示する。

3. いじめ撲滅集会

各学級でいじめ撲滅アクション（いじめをなくす・起こさないために、クラス全員で取り組む具体的な「行動」）を考え、いじめ撲滅の樹を作成。生徒1人1人が手形と署名という形でいじめ撲滅を誓う。完成した『いじめ撲滅の樹』は集会で交流し、集会後は年度末まで校内に掲示する。

②いじめ見逃しゼロを目指して、私たちができること（傍観者について考える）

1・2年生対象事前アンケートから(抜粋)

- 「いじめを見たときに何もしないのは悪いことだ」～8割がYesと回答
- 「傍観者の立場はいじめにどう関係するか」～同罪、いじめの悪化・加害行為の助長、いじめの容認
- 「いじめを見たらどうするか」～大人に言う、止める・注意する、被害者の相談にのる・助ける

傍観者について考える道徳授業から

《なぜ傍観者になってしまうのか》

- 多数：いじめを止める・注意する勇気がない
怖い、自分もいじめられるかもしれない
- 少数：関わりたくない（無関心）
他の誰かが止めてくれる（人任せ）
1人が注意しても変わらない

◎勇気を出して行動するために必要な準備や支えとは何か

- ・何でも言い合えて、誰とでも話せる人間関係や環境を作る
- ・互いに尊重し、思いやりの気持ちをもつ、認め合う
- ・被害者に寄り添える気持ちをもつ
- ・相談や協力ができる仲間を作る
- ・自分自身、そして自分の正しい行動に自信をもつ

いじめは絶対に許されないという共通認識のもと、いじめを集団の問題として受け止め、解決すべきで問題であるという理解を深めると共に、一人ひとりができる範囲で“動く”ことの重要性を伝えていきたい。